

令和6年度 日本電子専門学校 第二回学校関係者評価 中間報告会報告書

評価対象期間 自：令和6年4月 1日
至：令和6年9月 30日

令和6年12月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針・・・・・・・・・・・・・1
2. 学校関係者評価委員名簿・・・・・・・・・・・・・2
3. 学校関係者評価委員会の実施状況・・・・・・・・・・・・・4
4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方・・・・・・・・・5

II 学校関係者評価報告書の見方・・・・・・・・・・・・・6

III 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総評・・・・・・・・・・・・・7

令和6年度前期の取組（中間報告）に対する評価と意見

○学校の近況・・・・・・・・・・・・・8

○NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」・・・・・・・・・・・・・10

○クリエイター・エンジニア教育の重点項目・・・・・・・・・・・・・13

○総合評価・・・・・・・・・・・・・15

IV 学校関係者評価委員会議事録・・・・・・・・・・・・・17

○全体自由意見・・・・・・・・・・・・・20

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和6年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

- ① 第1回目(7月)に実施する委員会は、令和5年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和6年度に定めた、重点的に取組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ② 第2回目(11月)に実施する委員会は、令和6年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、在学生に委嘱した。

属 性	氏 名	所 属	役 職
企 業	鈴木 周祐	株式会社びえろ	人事総務部 リーダー
	後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	第4研究開発室 室長補佐
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	顧問
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	セキュリティ技術部 総括部長
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	篠原 たかこ	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 事業部長
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	舟山 大器	一般社団法人 日本 PV プランナー協会	EMA 認定センター センター長
	西郷 直紀	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	理事・ 事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	人材交流委員会 委員
高校教員等	勝間田 清一		
	品田 健	聖徳学園中学・高等学校	学校改革本部長
	横田 えりか	第一学院高等学校	キャリアサポート センター 室長
日本語学校	亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部

卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトマネージャー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
ご家族・ 保証人	高橋 美登里		
	岸本 美香		
	岡本 忠司		
地域住民	原田 識義	百人町西町会	会長
在校生	福田 るあ	コンピュータグラフィックス科	2年生
	渡邊 紗羽	コンピュータグラフィックス科	2年生
	江藤 海羽	ネットワークセキュリティ科	2年生
	下園 紗月	アニメーション研究科	1年生
	森下 晴紀	情報処理科	1年生
	岩永 礼矢	高度情報処理科	1年生
	蔡 ダ ウム	高度電気工学科	3年生 学生自治会副会長

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和6年度第二回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和6年11月25日（月） 15:00 から 17:20

場所：日本電子専門学校 メディアホール

2) 学校関係者評価委員会実施方法

対面及びオンライン会議システム（Microsoft Teams）を利用し、ハイブリッド運用にて実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

（1）事務連絡（スケジュール、事前配布資料確認） 15:00～

（2）校長挨拶

（3）出席者紹介（日本電子教職員、評価委員）

（4）評価方法説明

（5）議長（委員長）選出

（6）学校関係者評価委員会開始 15:20～

令和6年度教育重点項目 前期実施報告

・学校の近況

・NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

1. 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

2. 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

3. 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

4. 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

・クリエイター教育/エンジニア教育の重点項目

・・・ 評価結果の判定（評価シート記入） ・・・

（7）全体自由意見 16:30～

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、第二回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和6年度昼間前期（4/1～9/30）の自己点検を実施した。自己点検項目は令和6年度における「教育重点項目」3項目であった。

2) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、項目ごとに前期の取り組みが「十分」または、「不十分」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

The screenshot displays a web-based evaluation form. At the top, a purple header bar indicates '5セクション中 1 個目のセクション' (Section 1 of 5). The main title is '令和6年度 第二回学校関係者評価委員会 評価' (Evaluation for the 2nd School Relationship Evaluation Committee Meeting, 6th Fiscal Year). Below the title is a text area with a rich text editor toolbar (bold, italic, underline, link, unlink) and a label '令和6年度教育重点項目 前期実施報告'. The form is divided into sections. The first section, '御名前 *' (Your Name *), has a label '短文回答' (Short-answer response). Below this, a navigation bar shows 'セクション 1 以降 次のセクションに進む' (From Section 1, proceed to the next section). The second section, '5セクション中 2 個目のセクション' (Section 2 of 5), contains '学校の近況' (School's Current Status) with a label '説明（省略可）' (Explanation (omission possible)). Below this is the '評価結果 *' (Evaluation Result *) section, which includes two radio button options: '十分' (Sufficient) and '不十分' (Insufficient). At the bottom is a 'コメント欄' (Comment field).

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 25 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「十分」記入数、「不十分」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が入力したコメントを項目毎にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第二回目（11月）に実施する委員会は、「令和6年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う」ことになっており、この規定に従い、令和6年度日本電子専門学校第二回学校関係者評価委員会を令和6年11月25日に実施しました。

今回の学校関係者評価委員会については、委員会開催方法を対面とオンラインでのハイブリッド運用で開催し、3つの「教育重点項目」について、中間報告を校長および副校長、教育部署長より行いました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、ご父母、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生の参加委員25名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みが「十分」であったか「不十分」であったかを判断した結果が以下の通りです。

<教育重点項目に関する中間報告>

1. 令和6年度教育重点項目 前期実績報告 学校の近況（十分：25、不十分：0）
2. NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」（十分：25、不十分：0）
3. クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目（十分：24、不十分：1）

この評価結果は、日本電子専門学校の取り組みが委員に認められた証であり、多くの委員がコメントにもそのように記述しています。

また、学校教育法の改正への対応や、政府が進めているコンテンツ業界の人材育成について、政府や関係機関よりヒアリングを受けるなど、学校としての教育や活動が充実している証だと感じました。業界としても引き続き協力しながら、学生の育成や業界発展に努めていきたいと思えます。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 鈴木周祐

令和 6 年度 第二回学校関係者評価委員会

令和 6 年度教育重点項目 前期実績報告

・学校の近況

評価結果	十分：25 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① ・法律よりも先んじて自己点検や外部評価を実施されており、改めて素晴らしい取り組み、姿勢であると感じました。
・学内イベントの開催や学外の大会に参加され、また表彰されるなど非常に成果をあげられていると思います。（伊藤）←十分
- ② 本当に多くのトピックがあり、学生さんの活動が活発であることがよくわかります。また、学校教育法改正については、問題なく対応していけそうであると安心してお伺いできました。（鈴木）←十分
- ③ 国際的な取り組みを積極的に行っており、日本のコンテンツ作成する人材を日本電子専門学校から輩出していく活動を行っていることがよくわかりました。活動報告ではテキストだけでなく、実際の写真もあるとより具体的になり良いと思います。また、活動を実施したことで毎年学校学生がどう変わってきているのかも知りたいです（後藤）←十分
- ④ 特に問題は見当たりません。（木下）←十分
- ⑤ 対外活動において、学生のモチベーションにもつながることもあり、良いと思います。（相原）←十分
- ⑥ 技能五輪への取り組みなど積極的に、この分野の発展に寄与されている。（篠原）←十分
- ⑦ より厳しい環境になっているようですが、御校は十分やられていると思います。また、修学支援制度が認められているのも素晴らしいです。さらに学生の皆さんの活躍おめでとうございます。（原）←十分
- ⑧ 御校は情報分野では間違いなく日本一の実績があると思っています。永田町・霞が関との繋がりで日本の専修学校を更に良くして頂けたらと考えております。（満岡）←十分
- ⑨ 第 19 回若年者ものづくり競技大会にて「出場全種目」の入賞などなど入賞おめでとうございます。このような大会への参加だけでなく、毎年のゲームショウ出展や各種コンテスト入賞の報告を受けており、日本電子専門学校のレベルの高さと授業のみならず、早々に実践する場を提供する姿勢は素晴らしいと思います。また、より高見を目指し、法律に沿ったカリキュラムに変更されることなどがよくわかりました。今後も頑張ってください。（舟山）←十分
- ⑩ 着実に歩みを進められていると思います。（西郷）←十分
- ⑪ 仕事の都合で遅れて参加したためお話を伺っておりません。資料は拝見しました。（品田）←十分

- ⑫ 東京都や入国管理局等、公の機関から適切な評価をいただいているということが分かりました。学校教育法の変更に伴う対応は、時間を要したり大変な点もあると思いますが、確実に進めていただけると信じています。(横田) ←十分
- ⑬ ・外部評価を受けることは今の立ち位置が明確化されるため良いと思った。
・法改正にも柔軟に対応できているのではないかと感じた。学生が大会で好成績を残しているのはとても良いと感じた。
・修学支援制度がもっと多くの学生の力になれば良いと思う。(江藤) ←十分

・NEXT10「日本電子専門学校さらなる伸張」

評価結果	十分：25 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① ・「教育の質の保証・向上」で留学生のコンピテンシーが大学生と比較しても飛び抜けており、日本人学生と切磋琢磨していき互いに向上できることが御校の強みの一つかと考えました。今後のご報告を楽しみにしております。
- ・陳腐化させないよう最先端のサービス、技術を活用し、学生を飽きさせない、また、教育の質を上げようと努力されていることが良く分かりました。引き続き、期待しております。
- TrackTraining・・・日本電子さんならではの良いコンテンツができれば、リスクリングで企業に売れるかと思います。また、企業に使ってもらってフィードバックがもらえれば、企業から求められる技術やコンテンツが分かり、最終的には教育の質が向上すると思いました。期待しております。(伊藤) ←十分
- ② ディプロマサブリメントの視認性はすごく高い。各成長度が分かるのは良いと思う。コンピテンシーの結果からは、留学生の可能性を感じる。学生自治会が活発なのはよく感じます。イベントに際して、許諾に関する苦勞を感じた経験は関わった学生にとって、社会との大きな接点だったはずで、企業向けの講座開講は大変興味があります。先端テクノロジーという意味では、AIの各学科での教育への活用は必須になっていくかと思います。リテラシーの面からも必要性は高いです。(鈴木) ←十分
- ③ 実施内容と課題、今後の取り組みがしっかりまとめられており分かりやすかった。課題点はもう少し詳しく触れても良さそうと感じます。教育の質を可視化する取り組みは採用する企業にとってはありがたいと思います。(後藤) ←十分
- ④ 前回からブラッシュアップされて進展していることがわかりました。更なる実行に期待しています。(木下) ←十分
- ⑤ ・ディプロマサブリメントでの可視化は、自分がなにをしなければならないのかわかり有効であると感じました。
- ・学生自治会においても、社会に出てからのリーダー的な経験にもなるので有効であると思います。
- ・新設学科においては、就職時に効果的かどうか、企業へのヒアリングをもっと実施しても良いかと思っています。
- ・遠隔授業を推進するのは良いですが、学生のコミュニケーション力の低下が気になります。細かいところですが、企業では、最近は Google ではなく、Teams を利用しているところが多いです。Web 会議だけでなく、ファイル共有、チャットなども利用しています。(相原) ←十分
- ⑥ 各項目について真摯に向き合っている。新学科設立では、何度かの調査と審議を経た最終案をさらに審議中であり、またオンライン教育についても結果の分析やこれからの取り組みについての視点を持って取り組んでおり、やりっぱなしではない姿勢を評価します。(篠原) ←十分

- ⑦ 産業界を見据えた人材育成をしている点は特に良いと思いました。求められる人材についてはどこまでヒアリングされているのか少し不明でしたが、さまざまな点でよくやられていると思いました。また、学生の自主性も養っていると感じました。(原) ←十分
- ⑧ 様々なツールを活用した効果測定・授業の運営に好感を持ちました。導入当初は不慣れな点等大変かもしれませんが、前向きな変化への対応は常にするべきだと考えます。(満岡) ←十分
- ⑨ 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」については、ディプロマサプリメント着々と進捗されていますね。オリジナルの学修成果の見える化が大変分かりやすく大変良い取り組みだと感じました。また、社会で求められている能力を“リテラシー”と“コンピテンシー”の二側面で客観的に測定するアセスメント手法も、大変興味深く、有意義な取り組みだと感じました。次に「学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実」についてはその目的として、学生自治会の適正運用、学生主体の学校行事の在り方の検討、クラス内組織の検討を通じ学生の社会人基礎力の向上を図ることを目的としていること、そして実際の内容もよく理解することができました。また、「新設学科開発フレームを活用した調査・検討」についても、常に「魅力のある、募集力の高い状態」を保つための土台作りとして、学科の新設と既存学科の見直しを行っていること、そしてその内容と後期に向けた行動がよくわかりました。特にリスクリングに関するニーズ調査は必要かと思います。最後に「遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用」については、遠隔授業のベストプラクティスの作成や、状況の変化に対応した GoogleMeet への変更をナレッジベースで公開したり、オンデマンドの授業運用ツールを活用していることが理解できました。(舟山) ←十分
- ⑩ 学校で決定した取り組み内容については十分に達成しているのではないかとおもいます。(米井) ←十分
- ⑪ DX スペシャリスト科の卒業生の様々な分野での活躍を大いに期待するところです。また、リスクリングのための企業向け講座について、今後の進展に期待しています。(西郷) ←十分
- ⑫ 新設の学科の検討も含め、常に見直しと改善に取り組まれていることがわかりました。中高としても学校改革のあり方として見習わなければならないと実感いたしました。(品田) ←十分
- ⑬ PROG、Edu leap、Track Training など外部サービスを活用してより良い教育活動をしていこうという姿勢が感じられました。ナレッジシェアしながら効率的に進めていくことを期待しています。(横田) ←十分
- ⑭ 当校教員が担当させていただいています、日本語クラス(会話、JLPT)についても、今年度は meet を使用しましたがやはり、zoom に慣れているため、戸惑う場面がありました。来年度に向け、可能であれば作成された使用マニュアルを共有させていただけると大変たすかります。ご検討よろしく申し上げます。(亀田) ←十分
- ⑮ 十分に進捗していること、現時点での課題の抽出と対応が進められていることが確認できました。(谷) ←十分

- ⑩ ・学生自治会の活動がもっと認知されれば良いなと感じた。
・独立するのであれば、学生主体であるということも考え、予算等の計画内容を生徒に公表した方が良かったと思った。
・できたばかりの DX 科のフォローアップもしながら、新学科の設立がうまくいくのかと懸念が生じる。(江藤) ←十分
- ⑪ まだ不十分なところもあったが、そこに向けての対策を考えていて素晴らしいと思った。(福田) ←十分

・クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目

評価結果	十分：24 96%	不十分：1 無回答：0
------	--------------	----------------

コメント欄

- ① 非常に努力されていると思います。引き続き、よろしくお願いいたします。
(伊藤) ←十分
- ② 上昇傾向にあるものの、抑え込んではいない印象です。分析細分化項目の健康についてですが、精神的衛生的な側面などは学校生活に起因する部分もあるので、より細分化した分析をしてみても（しているかとも思いますが）参考になると思いました。対策としては十分実施されている印象です。(鈴木) ←十分
- ③ 数年間の傾向からどこに原因があるかを分析しそれに対して取り組みを行っている事がよくわかりました。学校側だけで対応が難しいなか、学生への最大限のサポートの模索と教員への負担も考慮しての取り組みであることもわかりました。ドロップアウトの分析は、学科、年次、男女比、出身地(都内か地方か)、高校の成績なども考慮するとより具体的な対策が足せそうと感じました。この辺も報告にあると良さそうです。(後藤) ←十分
- ④ 退学率の低下は、先生方の努力のたまものと感じています。留学生についてはまだまだ言葉の壁を持つ方もいるようですので、併せて何か対応できないものと感じています。(木下) ←十分
- ⑤ 現在の状況は貴校だけでなく、他の学校、企業においても同様であると考えます。検討することは重要ではあるものの、学校側での対応にも限度があるように思います。(相原) ←十分
- ⑥ ・学習理由による退学
入試が必要なのかもしれませんね。プログラミングだけでいえば、適性ってあります。
・他のクリエイター系でも同様の話があるのではないかな？
逆に適正や素養がない人材でも、日本電子は上手に教育して育てられるというのであれば問題ないが。
・他の専門学校や大学の退学率との比較は？
100人に1人やめるくらいなら対策不要と思われ、専門的技術の教員リソースをそこに使うのはナンセンス。(渡邊) ←十分
- ⑦ 1人の教員が負担するのではなく、先端技術・しくみ・ツールを取り入れるなど、学校全体の取り組みとして様々な教職員が関わりながら取り組んでいきたいというコメントがあったが、教える側が疲弊してしまうと、学生にも伝わってしまうので、教員の皆さんの健康や研鑽の機会が得られるよう、お願いしたい。学生にも先生から学習の楽しさや意欲が高められるようこれからもよろしくお願いします。
(篠原) ←十分
- ⑧ よく分析していますね。対策として考えていて良いと思いました。ただ、健康については精神的なものはありませんか？業界では精神的理由で休職になるケースが多くなっています。まだまだやることのあるのではないかと思います。ここは永

遠の課題だと思いますので、あえて不十分とさせていただきました。

(原) ←不十分

- ⑨ 留学生の増加は驚きました。経済的な面での支援・アドバイスは素晴らしいと思いました。(満岡) ←十分

- ⑩ ドロップアウト対策は、毎回感じることでありますが非常に難しい問題ですね。この同様の問題は、ありとあらゆるグループ（企業などを含め）の課題だと思います。しかしながら、わたしたち企業よりもさらに真剣取り組まれていることはよく理解できます。後期に向けては昨年度比では改善されているものの、年度末増加が毎年の傾向であるため、対応を継続していくこと、1人の教員が負担するのではなく、先端技術・しくみ・ツールなどを取り入れ、学校全体の取り組みとして様々な教職員が関わりながら取り組んでいく方針であるとのこと、期待しています。

(舟山) ←十分

- ⑪ 先生方の対応が多岐にわたり、苦労も多いことと推察します。一定程度退学者がいるのが正常だと思いますので、1%、2%にこだわる必要はないように思います。

(米井) ←十分

- ⑫ 学習理由によるドロップアウト対策に一定の成果が表れています。引き続きあらゆる取り組みを推進してください。(西郷) ←十分

- ⑬ 経済的な理由については学生だけではどうにもならないところもありますね。中高としても保護者との連携に難しさを感じているところもあり、同じような状況が進学先でも生じていることは理解できます。それでも学習面など学園側でできる対応をされて一定の効果をあげていることは素晴らしいと思います。

(品田) ←十分

- ⑭ 学習面を理由にした退学者が増えないよう、進度別授業や復習用教材作成等、様々な対策をされていると感じました。通信制高校にも様々な通学スタイルがあるため、高校時代の通学頻度や日々の過ごし方を確認しておくことで、双方の不安を払拭することができるかもしれないと感じました。(横田) ←十分

- ⑮ コロナ期も影響していると思いますが、おそらく健康面での退学にはメンタル関係が増えているのではないのでしょうか。そういったことへの対処に対する取り組みなども今後どこかで伺いたいと思います。(亀田) ←十分

- ⑯ 原因の分析、対応が十分に進められていることが確認できました。(谷) ←十分

- ⑰ ドロップアウトの問題はとても気になる部分で、今後も取り組み、改善されていければと思います。(高橋) ←十分

- ⑱ ・退学理由が可視化されているため、分析を行いこれから改善できることを願います。

・学習理由の退学者が下がっていることはとても喜ばしいことだと思います。学習以外の退学に関してはフォローアップが難しいかと思いますが、少しずつでも良くなる傾向になれば良いなと思いました。(江藤) ←十分

- ⑲ きちんとドロップアウトの理由も分析してそれに対する対策を施しており、数字の改善に導けると良いなと思いました。(福田) ←十分

・自由意見【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

- ① 常に学生に寄り添って対応されていると思います。引き続きよろしくお願いいたします。(伊藤)
- ② 時代が進むにつれ、技術や環境が変わってきている中で、そこに合わせて持続可能な学校運営をされている事がよくわかりました。留学生が多いことも学校の特徴であり強みかと思います。日本の学生にも還元し、日本人学生の技術だけでなく、社会人基礎力などをあげられる仕組みを授業に取り入れられると良いと感じます。(後藤)
- ③ 意識が不足気味の学生、また留学生が持つ問題（日本語読解力等）は、学校主体はもちろん、学外の協力も得られればと思ったりしますが、どんなものでしょうか。本日の実施内容につきましては、引き続き先生方の努力に感謝しつつ、次の進展に期待しています。(木下)
- ④ 貴校において、日々学生のために努力されていることがわかります。今後においても継続的に対応いただければと思います。(相原)
- ⑤ 特にありません。今まで以上に環境の変化や人口減少、留学生対応と大変だと思いますが、引き続き、頑張ってください。(原)
- ⑥ 日々の多忙な中、いつもながら様々な側面からの対応は素晴らしいものを感じております。引き続き、質の高い教育機関としての継続運営を期待しております。(満岡)
- ⑦ ディプロマサプリメントや「PROG」を活用した基礎的・汎用的能力の測定は非常に画期的なものと感じています。完成、実際に活用しデータが蓄積されれば、他の教育機関に対し共有できれば素晴らしいものになると思います。(企業への応用も期待できます。)ぜひ頑張ってください。(舟山)
- ⑧ 「学生自治＝キャリア教育」とするのは、企業（採用担当者）の一般概念とは違うだろうとおもいます（前にも書いたかもしれませんが）。キャリア教育は「職業選択や職業観につながる要素」が不可欠かとおもいます。これらは一般的には産学連携やインターンシップなどに関連が深いと思いますので、それらの取り組みも含めた報告であればそこまで違和感はないかもしれません。ドロップアウトばかりに重きが置くと、普通に通学できている（手間のかからない）学生に不公平にあたらないのか…と思ってしまいます。(米井)
- ⑨ 本日は仕事のため遅れての参加となりまして失礼いたしました。留学生の増加など運営が難しくなる要素も増えるかと思われませんが、見直しと改善への取り組みが成果を上げることを期待しております。(品田)
- ⑩ ドロップアウト対策について、学生個人に関わりが近い項目と存じます。こちらについて担任だけでなく学校全体で対応していこうという姿勢が感じられ素晴らしいと思いました。(谷)
- ⑪ 引き続きよろしくお願い致します。(高橋)

- ⑫ オンライン授業だと先生に質問しづらいと感じます。また、僕の高度情報処理科 1 年次は前期も後期も週 2 登校で、登校が少なすぎると思います。オンライン授業で一度に多くの量を説明し、次の登校で課題をやるといった感じですが、それだと理解出来てなくて課題もやりにくいと思います。(岩永)
- ⑬ 改変する専修学校の規定にも対応して、様々な問題の対策にも変わらず取り組み続けてこれからも良い学校にしていってほしいと思いました。(福田)

IV 令和6年度第二回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和6年11月25日（月） 15：00～17：00

場 所：日本電子専門学校 メディアホール

学校関係者評価委員：

名 前	所 属 （役 職）	区分
鈴木 周祐	株式会社びえろ（人事総務部リーダー）	企 業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション （第4研究開発室 室長）	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー （顧問）	
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研（代表）	
相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社 （セキュリティ技術部 総括部部長）	
伊藤 好宏	JTP 株式会社（技官）	
篠原 たかこ	CG-ARTS（教育事業部 事業部長）	職能団体
舟山 大器	一般社団法人 PV プランナー協会 （EMA 認定センター センター長）	
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 （交流推進本部 人材交流委員会 委員）	
満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構 （理事）	
西郷 直紀	東京商工会議所 新宿支部 （事務局長）	
原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会 （理事 事務局長）	
横田 えりか	第一学院高等学校 （キャリアサポートセンター 室長）	高校教員等
品田 健	聖徳学園中学・高等学校 （学校改革本部長）	
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校（教務部）	日本語学校

谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト (プロジェクトマネージャー)	卒業生
高橋 美登里		保護者
岸本 美香		
福田 るあ	コンピュータグラフィックス科 (2年生)	在校生
渡邊 紗羽	コンピュータグラフィックス科 (2年生)	
江藤 海羽	ネットワークセキュリティ科 (2年生)	
下園 紗月	アニメーション研究科 (1年生)	
森下 晴紀	情報処理科 (1年生)	
岩永 礼矢	高度情報処理科 (1年生)	
蔡 ダ ウム	高度電気工学科 (3年生) 学生自治会副会長	

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
船山 世界	校長
杉浦 敦司	副校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
井上 直樹	キャリアセンター センター長
高橋 陽介	学事部 部長

進行：

- | | | |
|-------|-------------------------|----------|
| 15:00 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 船山 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 15:20 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（鈴木委員） |
| | 6. 令和6年度 教育重点項目 前期実績報告 | |
| | 学校の近況報告 | 船山 |
| | NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」 | |
| | (1)「建学の精神」の実現に向けた | |
| | 「教育の質の保証・向上」 | 杉浦 |
| | (2)学生主導で社会人基礎力を養う | |
| | キャリア教育の充実 | 井上 |
| | (3)新設学科開発フレームを活用した調査・検討 | 五十嵐 |
| | (4)遠隔授業の標準化・質保証と | |
| | 先端テクノロジーの利活用 | 大川 |
| | クリエイター教育とエンジニア教育の重点項目 | 大川 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 16:30 | 7. 意見交換 | |
| 17:00 | 8. 終了 | |

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【（企業／ゲーム）株式会社ファンコーポレーション 後藤様】

2点ございまして、質問です。学習成果を可視化するという件で、4段階評価と技術の習熟レベルというところで3段階評価というのがあったかと思うのですが、レベルの3段階評価というのは十分理解できたのですが、4段階評価というのはなにを基準にされているのでしょうかということが、1点目の質問です。

2点目の質問はドロップアウトで、パーセンテージを見せていただいたのですが、これは1年次だけなのでしょうか。それとも全部の年次を入れたものなのでしょうか。

【杉浦副校長から回答】

3段階というのは新しく作っているディプロマサプリメント上で3段階で表記をしようとしています。既存のS・A・B・Cという4段階の成績が科目ごとに到達目標が定められていて、その到達目標に達したか達してないかというところの4段階の区分けが科目ごとに設定されています。例えばプログラムの科目群には3科目とか4科目とか設定されておりますので、その中で4段階の成績が科目ごとにつきます。それを集計して今度はサプリメントの方の3段階にロジック的に、総合点が何点だとサプリメントの「3」に相当するとか、「2」に相当するという各科目の4段階評価を集計した結果、トータルで分野ごとに集計して表すといった形を今はとっています。

【大川部長から回答】

ドロップアウトのパーセンテージにつきましては、1年生だけではなくて全学という形になります。全ての学生さんを対象とした数字となっておりますので、対策の方も新入生に限った話ではありません。上級生・下級生の交流会の実施というのは、新入生に向けたドロップアウト対策の1つでもあり、進級生である2、3年生においても自分のこれまでの取り組みを振り返ることができるといった観点で2、3年生に向けてのドロップアウト対策に繋がってくると考えております。このような取り組みについては毎年、新入生アンケートを実施して傾向を導きながら対策を全学的に行っている状況です。

また、ドロップアウトのパーセンテージは年次別のものもあります。数字的には1年生は通学に慣れてないと入学して1か月で来なくなってしまったりするため、基本的には2、3年生よりも1年生の方が数字は高いです。

【（企業／ネットワーク）ストーンビートセキュリティ株式会社 相原様】

学校さん側の前向きな先進的な取り組みが確認できました。質の向上でサプリメン

トは通常の授業とは別にスキルを上げる、得意なところの分野を伸ばせるといったところが非常にいい取り組みではないかなと考えております。あと新設学科の方になりますが、色々ヒアリングをされているというのはよろしいかと思いますが、学生さんが卒業して企業が受け入れるということを考えると、どういうスキル、どういうニーズがあるのかといったところで、企業のヒアリングが非常に重要かと思っております。3、4社だけでなく多くの企業さんからヒアリングをかけられたらよろしいかと個人的には思っております。

また遠隔授業ですが、コロナ禍からして企業でもコミュニケーション不足といったところが課題にはなっております。出社してくるとコミュニケーションが得意不得意だったケースがあるので、遠隔授業というのは非常に有効的ではあるとは思いますが、単に遠隔授業をやるというよりも遠隔授業でいかに発言するかとか、自分の意志を伝えるかとかという取り組みもあってもよろしいではないかと思っております。

最後に、ドロップアウト対策なのですが、学校さんだけの話ではなく企業にとっても同じような問題があります。今、転職とかもいろんな情報が上がってくるので、なにかあればすぐにどこかに移ればよいという考え方を持った方が多く、そういう意味では一部分も仕方ない部分もあるのかなと考えております。

1点だけ質問がありまして、先ほどドロップアウト対策で留学生のお話で出ていましたが、留学生がいることによってドロップアウトが増えるのか、もしくはどういった意味合いで留学生が増加したことによってドロップアウトが増えているという解釈をすれば良いのか教えていただきたいです。

【大川部長から回答】

留学生の数字が増えたということに関しては、ドロップアウト対策というよりも今年度の新入生の傾向というところで、上げさせていただきました。留学生のドロップアウトはそれほど多くはないです。日本で学習をするために日本語を勉強し、専門学校に入学してくるため、相対的に見ると目的意欲は高いというのが現状になります。しかし、留学生のドロップアウトについては、特に言語的な問題であまり日本語が上手ではないといったことから、学習意欲の低下を引き起こさないようにサポートをしていく必要があります。

留学生が多いから日本人がドロップアウトするという関連は今のところ見えていません。

オンライン授業でのコミュニケーションの取り方につきましては、いろいろな取り組みがあるかと思いますが、授業内容や教員の指導方法の中で合う・合わないというのがあります。ただ、教員向けの研修の中ではコメントスクリーンといわれるツールを使った授業の進め方をお話させていただきました。

学生からの発言は、記名方式という誰が話したかわかるような形での発言は、なかなかしづらいというところがあり、コメントスクリーンというツールを使うと、匿名での投稿ができます。発言が匿名で行えるので、私の授業の体感では、かなり学生の発言が増えています。コメントスクリーンを使って匿名で発言した時と、Google チャ

ットや zoom チャットで自分の名前を明かした形で発言する時では、コメント投稿数が倍以上違います。

そのように、ツールを活用してコミュニケーションを促進していくということを現状はしておりますが、学科ごとに、匿名でなく記名でも発言が非常に多い授業や、画面にニコニコ動画のような形でコメントが流れてくるコメントスクリーンで授業することを好まない先生方もいらっしゃるしまして、研修は行いましたが、使っている先生もいますし、使っていない先生もいます。そのような方には別の方法で促進していこうと考えております。

ただ、自分で授業に発言をしているか否かは、先ほどもお話したオンライン授業アンケートの中でも統計を取って、それを先生に共有させていただき、問題提起をさせていただきますので、継続してこの点については取り組んで参ろうと思っております。

【(卒業生) 谷様】オンライン

「TrackTraining」の導入について感想になってしまいますが、Java120 問を「TrackTraining」というツールに導入して自動化するのか、「TrackTraining」自体を詳しくわかっていないのですが、こちらは私が学生時代にその当時は Java ではなくて C 言語だったのですが、140 問くらいあったと思いますが、1 問コーディングしてそれを先生にコードレビューしてもらうという作業です。非常に先生は大変だったんだろうと思います。タイミングによっては行列が先生にできてしまうというようなそんな状況もあって、ツールの道具を難航しているというところがあると思いますが、これを導入してうまく運用するようになるとすごく効率的な授業になるのかなと感じました。

ただ 1 点、先生とコミュニケーションをしながら直接対面で指導いただく機会が減ってしまうのも寂しいかなというのと、覚えるコーディングを学ぶ面でも直接指導していただくタイミングも若干残ったほうがいいかなと少し感じました。

【大川部長から回答】

おっしゃるとおりで百何問の課題を見て、先生のチェックを待つ行列が実際にできてしまうというのはその当時も今も変わりません。学生さんも提出された課題がチェックされて結果を待つ時間がやる気の持続に非常に悪影響なのかなと考えております。

したがって、そのようなツールを使うことによって課題のチェック自体の時間を短縮し、先生方はその分学生さんの作業を確認するため教室内を回ることができるようになります。つまり課題チェックはシステムにお任せして、授業中は教室内を巡回し、手の止まっている学生にコミュニケーションを取って、取り組みを把握できるというのは非常に良い効果が得られるのではないかと、我々もまだ導入しきれていませんので、その効果はわかりませんが目論見をしております。

また、先生方と学生さんのコミュニケーションについては、巡回等を通していろいろ対話をしていきたいと思いますが、最近ではプログラムがわからないとすぐにチャット GPT に聞くというような学生さんも増えてきております。教育の効果を高めていくためにチャット GPT 等を使うような仕組みを導入できるかというのはまだまだ検討

の余地ありかなと考えております。新入社員の研修等で、そういった AI のツール等々を効果的に使う仕組みについてアイディアがございましたら情報をいただければと思います。

【(企業／情報) 合同会社ワタナベ技研 渡邊様】 オンライン

質問と意見になります。質問としましては、今回ドロップアウトのところの話のときに学習理由による退学が 4%だという話があったかと思いますが、他の専門学校さんや他の大学さんと比べると高いのか低いのかをお教えいただきたいと思いました。

また、意見になってしまいますが、そもそも 1%の退学率くらいであれば、専門学校で入学試験をやってない状態、AO 試験等で入ってくる状態で学習についていけなくて辞めるのが 1%や 2%くらいであれば、致し方ないのかなと思います。あと対策として先生個人ではなく学校の仕組みやツールで対応していくという話がありましたが、今、担任の先生に頼っているという状況から考えると、その専門的な技術を教える先生にそのようなことをやらせること自体が非常にナンセンスだなと聞いていて思いました。専門学校の優秀な先生を採用するという観点でも、そのような業務を先生にやらせないような施策をどんどんやっていかないといけないのではないかと思います。私学の情報系の大学の教授でも生徒のフォローというところが非常に重荷になっていて、そのような業務を外に出していくというようなことをやられています。小学校や中学校でも先生の負荷が高いという話がよく言われますが、大学の教授においてもそのようにされているという事例を聞きましたので、ぜひ日本電子専門学校さんでご検討いただいて対策取っていただければ、優秀な先生もしくはその先生がしっかりとした技術の方を教えるというところに専門化できると思っております。

【井上センター長からの回答】

ドロップアウトの質問について、正式に枠組みを作って他校と比較というのはしておりませんが、昨年度くらいから本校と同規模の学校と意見交換させてもらったり、ドロップアウトの話をすることがあります。数値では本校あまり高くない印象を持っています。今後も専門学校の方とは定期的にお話をする機会もありますので、そういった取り組みをしながら比較もしていきつつ、本校は本校の基準で対応していきたいと考えているところでございます。

【五十嵐部長からの回答】

私も重点項目としてドロップアウトというのをあげておりまして、教員に対する負荷という観点では心的なトラブルを抱えている学生も最近多く見られております。我々教員は専門家ではないのでなかなか対応が難しいというところで、本校は心理相談室を設けておりまして、心理カウンセラーが常駐しております。極力そういった傾向が見られたら学内ではカウンセラーの方を紹介して専門的な見地からアドバイスといただいたりして、個々の教員にかかる負荷が結果的に軽減されるということと、学生に対するサポートがより質の高いものになるという点で取り組みをしておりますので、引き続きそういった対応を続けていきたいと思っております。

【(企業/AI・モバイル) JTP 株式会社 伊藤様】オンライン

2 点ございます。1 点目が留学生のコンピテンシーです。教育の質のところで、留学生のコンピテンシーが他の在學生と比較しても非常に飛び抜けているといったところがあったかと思います。こちら非常に面白い、興味深いと思って聞いていました。非常にポテンシャルが高い学生の方がいらっしゃいますので、ぜひ日本人学生と切磋琢磨して、とても良い取り組みができるのではないかなと思います。そしてこれが御校の強みの一つなるかと思います。ぜひ今後データを取っていく中で、どんどんクリアになってくるところもあると思いますので、引き続きご報告を楽しみにしております。

2 つ目が「TrackTraining」のところになります。技術の利活用といったところで、そういったツールを使いますといったところがあったかと思います。こちらですが、少し前にリスキリングというお話も出ていました。この「TrackTraining」の中に日本電子さんならではのコンテンツをうまく入れ込んで、リスキリングとして企業に売り込むことができれば、企業さんの方も使っていただいて企業からフォードバック、現場ではこういうコードはそんな書かないから必要ないとかももっとこういう風なトレーニングがほしいみたいなことがあれば、どんどんそういったところを吸収できて学生の方々にもコンテンツとしてフォードバックもできると思いますし、ぜひそういったところで進められるとなにか面白いことが起きるのではないかなと思っております。

【(企業/アニメ) 株式会社ぴえろ 鈴木様】

自治会の活動がすごく活発だというところをわたし毎回すごく感心している限りです。特に今回はイベントに際して許諾でいろいろなトラブルがあったというか苦労もされたとのことですが、まさにそれが社会に出てからの社会人としてのスキルに直結する経験だと思いますので、そういうご経験をされた学生さん、生徒さんがどんどんと後輩・後進にいろいろと伝えてもらえる環境があるというのは、学校としての大きな特色になるのではないかと考えております。

また冒頭、船山校長からご報告のあった「10」という大変に多いトピックで学生さんの活発さと学校教育法改正の中でも安心して見ていられるなというところを強く感じました。政府等のコンテンツ業界については関心が強いということでもヒアリング等で話が来ているということはそれだけ学校としての活動が充実していると感じました。我々業界としてもこれからも協力しながら良い業界、良い学生さんの育成というところで手を取って頑張っていければと感じた次第でございます。